

あいち通信

第五十二号 平成二十五年十一月

日本会議 愛知県本部 事務局
〇五一一 七六三一 四六七八

感謝！日本会議愛知県本部十五周年迎える！

前号でご案内した通り、去る十一月一日、百五十名の参加を得て開催された「感謝の集い」は、多くの方々から感動や喜びの声をお寄せいただきました。誇りある國づくり運動を実践して十五年、いよいよ悲願の憲法改正の日が近づきつつある。三年後に予想される衆参ダブル選挙と国民投票に勝利して、本懐を遂げたい。更なる同志の糾合に努める所存です。

（日本会議愛知県本部事務局長 服部守孝・文責）

感想・第二十七回歴史セミナー・伊勢・一日コースに参加して！

今年は二十年に一度、伊勢神宮にて社殿を新たに建て直し、神々に新しい神殿にお遷り頂く式年遷宮の年である。その「遷御の儀」が執り行はれて間もない十月十三日、日本協議会主催により伊勢神宮にて開催された（第二十七回「日本の誇り」歴史セミナー）に参加した。

午前前の特別研修では、國學院大學の茂木貞純教授より「式年遷宮の歴史に学ぶ日本の心」と題してご講話を頂いた。ご講話では、七世紀末当時の日本の伝統文化が危機に晒されるに及び、國の「基」を取り戻す必然性があげられたといふ背景が式年遷宮の起源となつてゐることや、およそ一三〇〇年もの間受け継がれてきた歴史と永続性をもつてゐること、そしてそれが他の文明圏には見られない極めてユニークな独自性を備てゐることなどをお話し頂いた。日本文明は、世界七大文明のうち唯一、一国のみで形成される稀有な文明であるが、そのやうな文明を形成できた背景にはかうした日本の神々に対するお祭りが脈絡と繼承されてきたことがあるといへよう。午後は外宮・豊受（とよ受け）大神宮を参拝した。ここでは天照大神のお食事を司る神、豊受大神（とよ受けのおほみみかみ）がお祭りされ、毎朝夕、神々にお食事をお供へする「日別朝夕大御饌祭（ひごとあさゆふおほみけさい）」が執り行はれてゐるといふ。また、ここでお供へする稻や野菜はすべて伊勢市内で収穫されたもので、「自給自足」を旨としてゐるとのこと。その祭りが行はれるその地に実際に立つたとき、茂木教授がご講話の中で仰つてゐた「稻作は神事である」とのお言葉の意味が改めてよく理解できたやうな気がした。鬱蒼とした森の中に立つ社殿の莊嚴な佇まひを拝見するにつけ、今回内宮は参拝できなかつたが天照大神に対する畏怖と尊崇の念を抱かずにはゐられなかつた。そしてその天照大神を皇祖とする万世一系の御皇室を戴き、二七〇〇年近くにも及ぶ歴史と伝統を育んできた日本といふ国に生を受けた幸運を改めて噛みしめた次第であり、このやうな貴重なセミナーに参加できたことを大変嬉しく思ふ。最後に、今回のセミナーに参加して思ひが至つたTPP交渉について私見を申し述べてみたい。

現在日本が参加してゐるTPP交渉において日本政府は「重要五品目」をも関税撤廃の検討対象とすることを発表したが、天皇陛下が新嘗祭において五穀農穫に対する感謝のお気持ちを神に捧げられることや、前述の「稻作は神事である」といふ茂木教授のお言葉からも明らかなどより、我々日本人は穀物を「神からの神事である」ととらへ、そこに単なる「食糧」といふ概念を超えた「伝統・文化」としての意味を見出してゐる。したがつて外国産穀物の無関税化は日本の伝統文化の浸食・破壊にもつながりかねない愚策であり、我々はこれを断固阻止すべく声を上げていかなくてはならないであらう。（筆者意志にて旧仮名遣いのままにしています）

（日本会議春日井支部事務局長 堀 晃司・文責）



（11/3）二十名目の五十回目を迎える

報告・名古屋東部支部、第一回勉強会、街宣実施！

第一部・開催場所

十月十九日（土）午前九時～午前十一時四十五分
野並コミュニティーセンター

●会場

●会員

●会員